



令和6年8月28日（水）川崎市立西丸子小学校

目まぐるしさの中で

川崎市立西丸子小学校 校長 筒井愛子

静まり返っていた教室に、久しぶりに響き渡る子どもたちの声を聞くと、「ああ、始まったな。」と実感します。「次に皆さんに会うのは、8月28日ですよ。」と伝えてから、もう1ヶ月。早かったようで、本当にいろいろなことがあった夏休みだったように思います。パリのオリンピックから始まり、決勝戦のタイブレークが話題となった高校野球、お子さんの部活動や少年チームなど、スポーツで頑張る皆さんを夢中で応援された方もたくさんおられることと存じます。また、スポーツ以外でも、夏休みはいろいろな催しもあり、子どもたちにとっては、一つのことに打ち込む貴重な機会も多かったのではないかと思います。

学校でも、PTAのご担当者様が中心となり、いくつかの催しをご計画くださいました。恒例の親子工作教室は、本年度も中原区建設労働組合の皆様のご協力をいただき、無事に開催することができました。

「体育館はさすがに暑さが厳しいのでは。」と、事前に役員の皆様と打合せをし、エアコンのある図工室、環境学習室の2か所で開催しました。スペースは狭く、道具の運搬などの手間はかかりましたが、安心して活動していただくことができ、参加した子どもたちも満足そうでした。ご協力くださった皆様に、心より感謝申し上げます。また、皆様にもご案内いたしました。8月には、高校生のボランティアによる染め物教室という初めての試みもありました。9月以降も、PTAでは、いろいろな催しが予定されていますので、お楽しみいただけるのではないかと思います。

ただ、楽しいことばかりでなく、心配なこともありました。南海トラフ地震臨時情報が初めて発令され、その後も各地で地震が続きました。台風が接近にも目が離せず、7号接近の際には、西丸子小学校にも避難所が開設されました。進路が逸れたこともあり、避難者は一人もいませんでしたが、実際に避難者がいた場合は、猛暑の中での熱中症対策も考えなければならない状況でした。また、今回は夏休み中でしたが、授業日に避難所が開設された場合、避難所開設中だけでなく、閉鎖の翌日も学校は休業となるため、子どもたちの教育活動にも影響が出ることとなります。これは過去形ではなく、今後も注意すべきことであり、学校管理者として、常に意識していなければならないと痛感しました。併せて、教育活動の中でも、日常的な訓練等で、子どもたちの意識をより高める必要があると感じました。

さて、いよいよ学校再開です。長い休みの後ですので、お子さんのリズムが戻るまでには、時間がかかる場合もあると思います。前期のまとめの大切な時期でもありますので、無理なく自然な形でリズムを取り戻すことができますよう、ご協力をお願い致します。

最後になりますが、夏休み中に草取り、田んぼの水の管理をしていただきましたコミスクの皆様、少年サッカークラブの皆様、本年度も暑い中、本当にありがとうございました。保護者の皆様、地域の皆様、今後とも、どうぞよろしく願いいたします。